

15–49歳の女性における避妊の現状：米国、2017年–2019年  
Kimberly Daniels, Ph.D.、Joyce C. Abma, Ph.D.

主な調査結果（Key findings）

2017–2019年の全国家族成長調査からのデータ

- 2017–2019年において、米国の15–49歳の女性の65.3%が何らかの避妊法を使用していた。
- 現在最も一般的に使用されている避妊法は、女性の不妊手術（18.1%）、経口避妊薬（14.0%）、長期作用型可逆的避妊法（LARCs）（10.4%）、および男性用コンドーム（8.4%）であった。
- LARCsの使用は、15–19歳（5.8%）および40–49歳（6.6%）の女性と比較して、20–29歳（13.7%）および30–39歳（12.7%）の女性の間でより高くなっていた。
- 現在のコンドームの使用は、非ヒスパニック系白人女性（7.0%）と比較して、ヒスパニック系女性（10.5%）および非ヒスパニック系黒人女性（11.0%）の間でより高くなっていた。
- 教育レベルが高くなるにつれて、女性の不妊手術は減少し、ピルの使用が増加した。

本文

ほぼすべての女性が生涯のうちに何らかの避妊法を使用しますが、特定の時期には、妊娠を希望している、妊娠中または産後である、性的に活動的でないなどの理由でいずれの避妊法も使用していない場合があります。このレポートは、2017–2019年の全国家族成長調査（NSFG）のデータを使用し、米国の15–49歳の女性を対象に、インタビューを受けた月時点での避妊の現状を概観します。また、年齢別、ヒスパニック系出自と人種別、および教育レベル別のいずれかの避妊法の使用状況に加えて、最も一般的に使用される4つの避妊法、すなわち女性の不妊手術、経口避妊薬、長期作用型可逆的避妊法（LARCs：避妊インプラント、子宮内避妊具を含む）、および男性用コンドームの使用パターンについても説明します。

図 1. 15–49歳の全女性および年齢群別、ヒスパニック系の出自と人種別、教育レベル別の現在何らかの避妊法を使用している女性の割合：米国、2017–2019年

データ概要

- ・ 2017–2019 年において、米国の 15–49 歳の女性の 65.3%が何らかの避妊法を使用していた（図 1）。
- ・ 避妊法の使用率は年齢とともに増加し、15–19 歳の女性では 38.7%であるのに対し、40–49 歳の女性では 74.8%に達した。
- ・ 現在避妊法を使用している非ヒスパニック系白人女性の割合（69.2%）は、非ヒスパニック系黒人女性（61.4%）およびヒスパニック系女性（60.5%）と比較して高くなっていた。
- ・ 現在の避妊法の使用率は教育レベル間で大きな差はなかった（69.1%–71.3%）。

女性の不妊手術、ピル、男性用コンドーム、および LARCs は、2017–2019 年に女性が現在使用していると報告した最も一般的な方法であった。

- ・ 15–49 歳の女性の間で現在最も一般的に使用されている避妊法は、女性の不妊手術（18.1%）、経口避妊薬（14.0%）、LARCs（10.4%）、および男性用コンドーム（8.4%）であった（図 2）。
- ・ 2017–2019 年において、15–49 歳の女性の約 35%が現在避妊法を使用していなかった。これには、妊娠を希望している、妊娠中または産後である、性的に活動的でないなどの理由が含まれる。

図 2. 15–49 歳の女性の現在の避妊法使用状況別割合分布：米国、2017–2019 年